

まちづくり ふじみだい

令和5年1月号（第96号）

発行 富士見台地区まちづくり協議会
会長 古曳 本市郎

★令和4年度

富士見台地区行政懇談会について

令和4年度 市長行政懇談会が、去る8月26日（金）に、富士見台まちづくりセンター多目的ホールで開催されました。まちづくり協議会に所属する団体からの要望に対し、小長井市長、森田副市長及び要望事項を所管する都市計画課の課長に御出席いただき、下記のとおりのお返事をいただきました。

【要望】 富士見台地区と新環境クリーンセンターをつなぐバス路線の開通について

富士見台地区においては、バスの利用が他地区よりも多く生活の足として利用されている。そのため富士見台地区から吉原中央駅や富士駅等縦方向のバス路線は他地区よりも多く設定されている。

しかしながら、横方向の移動のできるバスは無い状況にある。また、富士見台地区は他地区よりも高齢化が進んでいる中で、新環境クリーンセンターの構成施設である「ふじかぐやの湯」を利用したいというニーズがある。子育て世代においても「ふじさんエコトピア」の利用ニーズがある。

そのため、運転免許の返納も進む中でお年寄りの足を確保し、若い世代のニーズに応え、地区の魅力向上を図るためにも、ふじかぐやの湯線を延長する等の既存路線の延長、もしくは新規での富士見台地区と新環境クリーンセンターをつなぐバス路線の設置を要望する。

なお、近隣地区においても同じように地区と新環境クリーンセンターをつなぐバス路線の要望が予定されていることから、本地区でも重ねての要望として検討いただきたい。

＜都市計画課長回答＞

富士見台地区につきましては、「富士市都市計画マスタープラン」や「富士市立地適正化計画」等の行政計画において地域生活の拠点として位置付け、商業地としての機能や公共交通の維持を図ることとしております。

これにより、市では、富士見台地区を運行する民間バス路線3系統の欠損額に対して助成を行うなど、その維持に努めております。

ふじかぐやの湯線につきましては、新環境クリーンセンターの建設に伴い、平成25年12月に、青葉台地区ごみ処理施設建設反対委員会と取り交わした「青葉台地区全体のまちづくりに関する確認書」に基づき、吉原中央駅と青葉台地区、ふじかぐやの湯を結ぶバス路線として、令和2年10月に運行を開始いたしました。

当該路線は、市の自主運行路線として、富士急静岡バス株式会社に運行を委託しておりますが、昨年度の実績は、1,380万円余の運行経費に対して運行収入は153万円余となっており、その欠損額は1,200万円を超えております。

このような中、富士急静岡バス株式会社からは、「ふじかぐやの湯線は、青葉台地区の生活路線としてダイヤが組まれており、路線の延長は生活路線としての機能低下に繋がりにくい。また、先行き不透明な新型コロナウイルスの感染状況や深刻な運転士不足の問題等を踏まえると、既存路線の延長や新規路線の開設について検討できる状況にない。」との見解が示されております。

このことから、ご要望のバス路線の延長や開設につきましては、今後のふじかぐやの湯の利用状況やバスの利用ニーズ等を見定めた上で、交通事業者と協議・調整を行ってまいりたいと考えております。なお、市では、地区との協働のもと、各地区の特性に応じたコミュニティ交通の運行を行っております。その導入に当たりましては、地区からの立候補があること、地区が主体となってサポート組織を立ち上げること、既存バス路線への影響に配慮すること等の要件がありますが、立候補を受けた際には、地区の皆様と検討を行ってまいります。行っていききたい。

【関連質問者】

富士見台地区でコミュニティバスの導入については難しいと思う。吉永北地区のデマンドタクシーを近隣地区で共同利用することは可能か。

＜都市計画課長回答＞

コミュニティ交通のルールとして、運行経費の3分の1を、運行収入と企業等からの協賛金で賄うこととなっている。そのうちの不足した分を地区で負担する必要がある。現在市内において共同でデマンドタクシーを運営している地区はないが、負担金の部分がクリアできれば、共同利用はできると思う。



◆行政懇談会当日に出席者から出された要望及び質問を紹介します。

【質問者】

南富士カントリークラブの跡地利用について伺いたい

＜市長回答＞

南富士カントリークラブの跡地の3分の2を富士市が取得し、3分の1を富士環境保全公社が廃棄物最終処分場として活用するために取得する。

南富士カントリークラブの跡地が民間に売却された場合、既に開発された土地のため森林法の制限や、富士市が定める富士愛鷹山麓の環境を保全し適正な活用を定めた条例の適用を受けない。

例えば、全国からの土砂の受け皿や、富士山麓の広大な土地がメガソーラーパネルでいっぱいになってしまう恐れがあり、国土の保全や景観の観点から大きな課題が生まれてくる。市が取得することによってそういった不適正な開発を防ぐことができる。

第3期最終処分場の建設の必要性としては、第2期最終処分場があと数年でいっぱいになってしまうためである。ゴミの減量やリサイクルを進めて延命していく必要があり、市民から出てくる一般廃棄物のうち、旧環境クリーンセンターで出た焼却灰は最終処分場に埋め立てていたが、新環境クリーンセンターで出た焼却灰はセメント原料として再利用している。しかし、埋立ゴミや産業廃棄物などは最終処分場での処分が必要である。富士環境保全公社は富士市が22%出資しており市が監視役として関わっている。適正に廃棄物を処理することで、富士山麓の不法投棄を防ぐことができる。

平成24年から第3期最終処分場の候補地を探していたが難航していた。これは第2期最終処分場の地元といわれる神戸地区、吉永北地区、吉永地区の3地区と確認書を交わしているが、その中で第3期最終処分場の建設地としては桑崎地域でないこと、国道469号より南側であること、処分場から出る水に関しては、河川に放流できる水質まで浄化してから下水に放流することが条件とされており、なかなか候補地が見つからなかった。

安全対策としては漏水防止のために、不織布のシート3層、ゴムのシート2層、合わせて5層のシートで覆っており、仮に漏水した場合も漏水検知システムによってどこに穴が開いているかがわかり修復することができる。ここ数年一度も事故が起きていない。大規模災害が起きた場合についても、断層が確認されておらず非常に地盤が固く、東日本大震災の時も問題はなかった。これまでしっかりと安全対策を行ってきた。災害発生時のがれき処理対策としても活用できる。神戸地区、吉永北地区、吉永地区に隣接する富士見台地区でも大変関心が高いことと思われるので、必要であれば担当部長以下の職員や、私自身ご説明に上がります。



.....
来年度も8月に行政懇談会の開催を要望する予定です。各種団体の活動において、日頃から感じている地域全体の課題、問題点を整理しておくことが大切です。5月頃に各種団体の長宛に要望書の提出案内をお送りしますので、課題のとりまとめをお願いいたします。

★どんど焼きについて★

令和4年1月9日（日）に中の池で町内会連合会とまちづくり協議会の共催でどんど焼きを開催しました。多くの地域住民が参加し正月飾りや書初めなどを焚き上げました。小学生以下の子どもに駄菓子の無料配布を実施し、子どもから大人まで幅広い年代の方が訪れにぎわいを見せました。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため令和3年度のまちづくり協議会の多くの事業が中止になるなか、手指消毒の徹底など感染症対策を行いながら開催することができました。



★新小学1年生への防犯ブザーの寄贈について★

令和4年3月4日（金）に令和4年の4月より富士見台小学校に入学する新1年生に、防犯ブザー50個を寄贈しました。

この防犯ブザーの寄贈は、8年前に不審者事案が相次いだため、低学年の児童を中心とした防犯活動の一環として、見守り活動と共に継続して行っています。

これからも、子どもの安全を地区全体で守るため、この活動を続けていきたいと思えます。



★安全大会について★

令和4年9月3日（土）に富士見台まちづくりセンター多目的ホールで安全大会が開催されました。安全協会富士地区支部富士見台分会の主催事業（富士見台地区まちづくり協議会協力）で富士見台地区の住民約100名が参加しました。市役所市民安全課職員による防犯講話や交通安全指導員による交通安全講話が行われました。

防犯講話では市民安全課職員より、市内の犯罪発生状況や、特殊詐欺の手口、最近の傾向などが説明されたほか、市内の高校生と共同で制作した詐欺被害防止の啓発動画が紹介され、疑う・確認・相談をキーワードに被害の防止が呼びかけられました。また有効な防止手段として悪質電話対策機器について紹介され、65歳以上の市民が機器を購入する場合1万円を限度に補助金を交付していることから、購入する場合は事前に市民安全課に相談するよう呼びかけていました。

交通安全講話では交通安全指導員より富士見台地区周辺の交通事故を踏まえ、事故防止の方法が紹介されました。歩行者が横断するときに青信号でも周囲をよく確認したり、ドライバーがフロントガラスの柱の死角による見落としを避けるために首を動かして周囲の安全を確認するなど歩行者とドライバー双方の目線でアドバイスがありました。

安全大会で学んだことを実践し、地区で力を合わせて犯罪や事故をなくし、安心・安全なまちづくりを目指していきましょう。



★まちづくりセンター倉庫の片付け

について★

令和4年9月6日（火）にまちづくりセンター倉庫の片付けを行いました。令和5年度に予定されているまちづくりセンターのリニューアル工事に伴い、お祭りなどの地区行事に使用した机やイス、提灯などを整理し不要なものを処分しました。小雨が降る中まちづくり協議会の理事15名が参加し、片付けを行うことができました。



★オータム・イン富士見台について★

令和4年10月8日（土）に富士見台地区の秋祭りであるオータム・イン富士見台を開催しました。

新型コロナウイルス感染症対策のため来場者カードの記入を義務づけたり、出店・出演団体数の制限、アルコール類の提供の禁止、抽選会の後日実施など例年と内容を大幅に変更して実施しました。

当日は、栄太郎会による民謡や乱舞！FUJIMIDAIのよさこいパフォーマンスが行われ、祭りの最後には駿州木嶋手筒組による手筒花火の披露があり大いに盛り上がりました。

手筒花火には天下泰平などを記念する意味があります。新型コロナウイルス感染症が収束し、地区行事の再開等活発なまちづくり活動ができることを願っています。

今年度も昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響で、新役員顔合わせ会や三世代交流輪投げ大会が中止・延期になりました。しかし、感染症対策を実施しながら開催できた事業もあります。富士見台地区の行事では、生涯学習推進会がプレイデーや文化祭を例年と内容を変更して開催するなど、各団体が新型コロナウイルス感染症と向き合いながら事業に取り組んできました。

新型コロナウイルス感染症の収束の見通しが立たず、コロナ過以前と全く同じような事業の実施は難しいかと思えます。しかし、感染症対策を実施し、創意工夫をすることで事業を実施することができます。

令和4年4月より新たな富士見台地区まちづくり行動計画がスタートしました。「子どもから高齢者まで安全、安心、元気なまち富士見台」の実現に向けて、まちづくり活動に取り組んでいきます。

